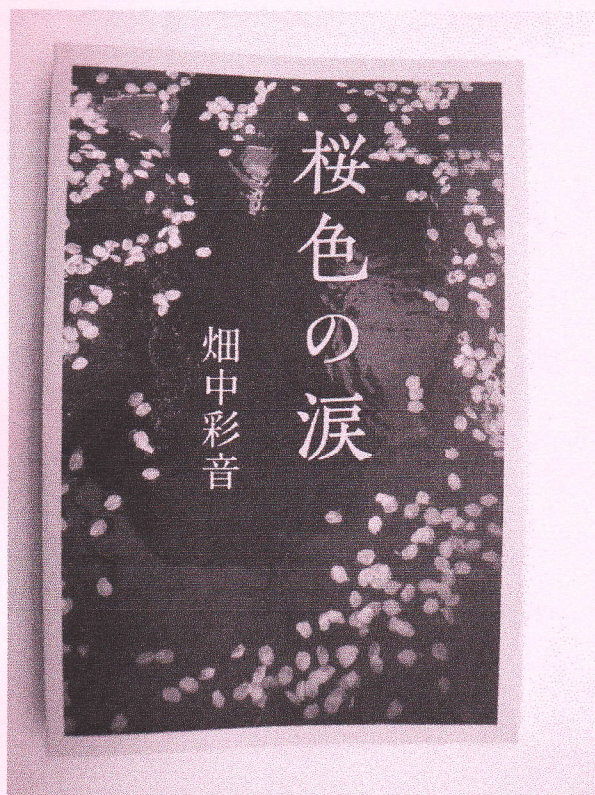


愛と憎しみが交錯する
家族の崩壊と再生の物語。

桜色の涙

畑中 彩音 著



幻冬舎メディアコンサルティング 発行

パパのせいで
ママの心は壊れてしまった

幾度となく繰り返される夫の裏切り。
ママの心は、満開の桜のように、
儂く散っていった。
そしてママは統合失調症になった。

夫や姑、小姑に冷酷ないじめを受けて、心の
病を発症した母を守るため、娘の美和は医師
を目指す。

統合失調症をテーマにした 家族の葛藤の物語。

精神分裂病と名付けられ、偏見と差別の対象として長い間社会から忌避され、隠されてきた病気。2002年に統合失調と病名が改められて以来、徐々に社会に認知・受容され、医学書のみならず、当事者の体験談や家族の手記も多く出されるようになりました。とはいえ、それらは病気の関係者の間でのみ、目に触れる範囲にとどまっています。未だ世間の多くの人が病気の実際を知ることのない、隠された病気のままなのが現実です。

そこで、統合失調症とは直接縁のない人にも、興味を持って抵抗なく読んでもらえるように、心やさしい一人の女性が、身内からの理不尽ないじめに遭って運悪く病気に陥っていく様子を、家族の物語としてドラマチックに描きます。そうして、奇異な精神症状を呈するがゆえに特別視されることが多いこの病気が、他の病気と同様に身体（脳）の故障による一つの病気に過ぎないということを、主人公の言葉を通して訴えています。

